

専門英語（４年）

責任者・コーディネーター		病理学講座（病態解析学分野）入江太朗教授 口腔顎顔面再建学講座（口腔外科学分野）川井忠准教授		
担当講座（分野）		歯科補綴学講座（冠橋義歯・口腔インプラント学分野）、 歯科補綴学講座（有床義歯・口腔リハビリテーション学分野）、 口腔顎顔面再建学講座（歯科麻酔学分野）、法科学 講座（法歯学・災害口腔医学分野）、口腔顎顔面再建学講 座（口腔外科学分野）、口腔保健育成学講座（歯科矯正学 分野）、口腔保健育成学講座（小児歯科学・障害者歯科学 分野）		
対象学年	4	区分・時間数 (1コマ2時間換算)	講義/演習	実習
期間	通期		前期 —	—
			後期 14.0時間	—

学修方針（講義概要等）

教養課程、2年次と3年次に履修した専門英語の理解度をさらに深めるため、グループワーク、ディスカッション、ディベートなどのアクティブ・ラーニングを活用した繰り返し演習を実施する。本科目の修得により、歯科臨床の現場で使用する歯学の英語基本用語を再確認できる。5年次臨床実習を行うに足る十分な歯学専門英語の知識を確実に身につけることができる。

教育成果（アウトカム）

医学・医療のグローバル化、先進化にともない、歯科医学・医療についての情報を収集する場面、増加する外国人の歯科診療を行う場面など、様々な場面で、英語を用いたコミュニケーションを行うことが必要とされる。専門英語では、1) 医学の共通語としての医学（歯科）用語を学び、臨床実習のケースプレゼンテーションや歯科医師国家試験における“歯科医学、医療分野で必要とされる英語”に備えるとともに、2) 教養課程で学んだ英語をさらに発展させ、専門論文などを読む上に必要な読解力を習得することで、総合的なコミュニケーションスキルを高める。

（関連するディプロマポリシー：2、7）

到達目標（SB0s）

日程表の到達目標の欄に授業毎に示す。

事前事後学修の具体的内容及び時間

シラバスに記載されている次回の授業内容を確認し、テキストを用いて事前学修（予習・復習）を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は平均30分を要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。適宜、事前学修内容の発表時間を設ける場合がある。

（事前学修：平均30分を要する 事後学修：平均45分を要する）

講義/演習日程表

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [コア・カリキュラム] 事前事後学修
講義	10/10 (金)	1	今一裕准教授 (冠橋義歯・口腔インプラント学分野)	歯学の基本用語 1 臨床でよく使われる歯学用語を理解する。	1. 補綴学を通して学習した内容に関連した基礎的な歯学用語を理解できる。 2. 専門用語の成り立ちと基本構造を学ぶ。 3. 補綴学を通して学習した内容について、臨床の場で使われる歯学用語を英語で説明できる。 [S0-07, C-7-1] 事前学修：補綴学領域の基本的な英語について、講義までに資料にある問題を解答する。所用時間30分程度。 事後学修：講義での解答を確認して事後学習を行うこと。所用時間45分程度。
講義	10/10 (金)	2	熊谷章子特任教授 (法歯学・災害口腔医学分野)	歯学の基本用語 2 臨床でよく使われる歯学用語を理解する。	1. 法歯科医学・災害歯科医学を通して学習した内容に関連した基礎的な歯学用語を理解できる。 2. 専門用語の成り立ちと基本構造を学ぶ。 3. 法歯科医学・災害歯科医学を通して学習した内容について、臨床の場で使われる歯学用語を英語で説明できる。 [S0-07, C-7-1] 事前学修：法歯科医学・災害歯科医学領域の基本的な英語について、講義までに資料にある問題を解答する。所用時間30分程度。 事後学修：講義での解答を確認して事後学習を行うこと。所用時間45分程度。
講義	11/26 (水)	4	小林琢也教授 (有床義歯・口腔リハビリテーション学分野)	歯学の基本用語 3 臨床でよく使われる歯学用語を理解する。	1. 高齢者歯科学を通して学習した内容に関連した基礎的な歯学用語を理解できる。 2. 専門用語の成り立ちと基本構造を学ぶ。 3. 高齢者歯科学を通して学習した内容について、臨床の場で使われる歯学用語を英語で説明できる。 [S0-07, C-7-1] 事前学修：高齢者歯科学領域の基本的な英語について、講義までに資料にある問題を解答する。所用時間30分程度。 事後学修：講義での解答を確認して事後学習を行うこと。所用時間45分程度。

講義	12/1 (月)	3	川井忠准教授 (口腔外科学分野)	歯学の基本用語 4 臨床でよく使われる歯学用語を理解する。	1. 口腔外科学を通して学習した内容に関連した基礎的な歯学用語を理解できる。 2. 専門用語の成り立ちと基本構造を学ぶ。 3. 口腔外科学を通して学習した内容について、臨床の場で使われる歯学用語を英語で説明できる。 [S0-07, C-7-1] 事前学修：口腔外科学領域の基本的な英語について、講義までに資料にある問題を解答する。所用時間30分程度。 事後学修：講義での解答を確認して事後学習を行うこと。所用時間45分程度。
講義	12/1 (月)	4	佐藤健一教授 (歯科麻酔学分野)	歯学の基本用語 5 臨床でよく使われる歯学用語を理解する。	1. 歯科麻酔学を通して学習した内容に関連した基礎的な歯学用語を理解できる。 2. 専門用語の成り立ちと基本構造を学ぶ。 3. 歯科麻酔学を通して学習した内容について、臨床の場で使われる歯学用語を英語で説明できる。 [S0-07, C-7-1] 事前学修：歯科麻酔学の基本的な英語について、講義までに資料にある問題を解答する。所用時間30分程度。 事後学修：講義での解答を確認して事後学習を行うこと。所用時間45分程度。
講義	12/5 (金)	1	佐藤和朗教授 (歯科矯正学分野) 齊藤桂子助教 (小児歯科学・障害者歯科学分野)	歯学の基本用語 6 臨床でよく使われる歯学用語を理解する。	1. 小児歯科学および矯正歯科学を通して学習した内容に関連した基礎的な歯学用語を理解できる。 2. 専門用語の成り立ちと基本構造を学ぶ。 3. 小児歯科学および矯正歯科学を通して学習した内容について、臨床の場で使われる歯学用語を英語で説明できる。 [S0-07, C-7-1] 事前学修：小児歯科学および矯正歯科学領域の基本的な英語について、講義までに資料にある問題を解答する。所用時間30分程度。 事後学修：講義での解答を確認して事後学習を行うこと。所用時間45分程度。
演習	12/10 (水)	3	入江太朗教授 (病態解析分野) 川井忠准教授 (口腔外科学分野)	歯学の基本用語 (到達度評価試験)	1. 客観的な評価（到達度評価試験）を受け、達成度と理解度を知る。

教科書・参考書・推薦図書

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
参	Dental Terminology 3rd ed	Charline M Dofka	Delmar Cengage Learning	2013年
推	Medical Terminology A short course 9th ed	Davi-Ellen Chabner	Saunders	2023年

成績評価方法・基準・配点割合等

各コースの臨床系講座（分野）教員によるグループ学習、または対話形式の授業で行い、到達度評価試験により達成度と理解度を評価する。

特記事項・その他（試験・レポート等へのフィードバック方法・アクティブラーニングの実施、ICTの活用 等）

・3年までに学習した英語・英単語を基礎に、将来必要とされる英語を用いたコミュニケーション力を養うため、ディスカッション・プレゼンテーション方式の講義を行う。そのためには3年次のテキストを必ず復習して講義に臨む必要がある。その上で臨床に用いられる各コースの専門英語を習得する。講義の途中あるいは最後にクリッカー、WebClassを活用して学生の理解度を逐次確認する場合がある。

・到達度評価試験により達成度と理解度を評価する。各々個人で、英語での理解度、コミュニケーション力の向上に努めること。

当該科目に関連する実務教員の有無 … 有（大学病院等における医師や歯科医師の実務経験を有する教員が専門領域に関する実践的な教育を事例を交えて行う）

授業に使用する機械・器具と使用目的…特記すべき機械・器具等はありません。

使用機器・器具等の名称・規格	台数	使用区分	使用目的